



Title	海外体験型教育プログラムのつくりかた
Author(s)	安藤, 由香里
Citation	GLOCOLブックレット. 2016, 18, p. 106-107
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/55596">https://hdl.handle.net/11094/55596</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 4-1

# 海外体験型教育プログラムのつくりかた

**安藤由香里** 大阪大学グローバルコラボレーションセンター特任助教

本章は、「海外体験型教育プログラムのつくりかた-GLOCOL・FIELDOの経験・教訓を共有」と題して、2015年12月4日(金)17:00～18:30に、大阪大学吹田キャンパス銀杏会館大会議室にて大阪大学内他部局の教職員、他大学の教職員を対象に実施した内容を記録したものです。セミナーには北海道から沖縄まで約80名の方々に参加いただき、海外体験型教育への関心の高さを象徴するセミナーとなりました。

海外体験型教育企画オフィス(FIELDO)は、設立から5年間で約400名の学生を、海外フィールドスタディ、海外インターンシップを通して海外に送り出しました。本セミナーでは海外体験型教育プログラムの企画立案、学内体制づくり、受け入れ先との事前準備、リスク管理を含む実施時の留意点等に関するFIELDOの経験や、実施を通じて得た気づきと改善及び乗り越えた課題、残された課題等を学内外の教職員の方々と共有することを目的に企画されました。

セミナーでは、第一に「海外体験型教育とは?」と題して、プログラムの目的と期待される成果、プログラムの形態と内容、およびGLOCOLの海外派遣実績について説明がありました(報告者:敦賀和外)。第二に、「海外フィールドスタディの運営」と題して、どのようなプログラムにするのか、プログラムの科目化、科目の構成、シラバス作成・評価、受講者の選抜について(報告者:本庄かおり)、実施のスケジュール、経費処理について(報告者:片山歩)、5年間の経験に基づいた生の声が発表されました。第三に、「プログラム作成」として、海外フィールドスタディ受け入れ先との調整・事前調査について、事前学習について、実習中の配慮事項について、事後学習(振り返り)について報告がありました(報告者:安藤由香里)。最後に、学生海外派遣時のリスク管理についても報告がありました(報告者:敦賀和外)。そのうえで、5年間の教訓を各報告者が一言ずつ述べました。これらの報告後、コメントーター(和栗百恵:福岡女子大学)より講評を

述べていただきました。講評では、FIELDOが行ってきた活動を評価いただいた上で、今後の改善点などの示唆をいただきました。会場での質疑応答では、海外体験型教育の実施において多くの大学が抱えている疑問や質問が投げかけられ、活発な意見交換が行われました。

FIELDOの経験から生まれた「海外体験型教育プログラムのつくりかた」が、少しでも皆さまのお役に立てば幸甚です。